

松井利夫・早川欣哉

こども芸術の村5周年記念展 ― スイスからの贈り物 ―

本展覧会は、「こども芸術の村」プロジェクトの過去五年間の活動を総括し、次の五年につなげるための参加体験型の展示及びワークショップである。「つくる、つどく、つなぐ」をコンセプトに掲げ、会期中の来場者数は、小学生の親子や教育関係者等を中心に、一〇八名であった。

■展覧会概要

会 期：二〇一八年十一月三日（金・祝）～二十五日（日）  
会 場：せんだいメディアテーク 五階ギャラリーa  
主 催：京都造形芸術大学「こども芸術の村」プロジェクト  
助 成：財団「日本の子供たち」  
協 力：KANERI Museum Shop 6  
後 援：宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、  
河北新報社、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台  
放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、Date f m

■スタッフ一覧

統括責任者・監修：松井利夫  
現地責任者・企画：早川欣哉  
会場設計・展示計画：渡邊武海  
展示テキスト編集：清水チナツ  
フライヤーデザイン：伊藤裕  
記録集デザイン：根朋子  
事務局：稲葉雅子、倉茂麻子  
制作・展示・運営補助（順不同）：  
川村智美、村上美緒、吉川理香、田桑礼子、伊藤結子、  
阿部柚希、佐藤優作、三澤一弥、尾暮祐樹、森川玲捺、  
大友彩可、早川昌子、五十嵐帆奈、鎌田和紀、三品しずく、中村萌音、福井友希乃、戸村美里



ほってえ皿制作体験



ガレット・デ・ロワ(前半)オリジナルフェーブの制作



秋田の木遣いと作る箸・箸置き



祝いこけし



■展示概要

これまでに開催された十四種類のワークショップのテキストや写真を、使用した道具や素材、試作品、完成作品などと共に展示した。展示什器は、当展覧会による廃棄物の低減を目的に、再生可能な素材であり、こどもでも簡単に扱える身近な素材でもあるダンボール製とし、スタッフがロムで制作した。

会場設計において、展示物を見るための順路を設けないことに加え、展示什器の足元を三角形のトンネルとすることで、来場者が自由にぐり抜け、いろいろな視点や角度から展示物を見ることができるよう計画した。また、そうした行為を促すよう、各トンネル内にオリジナルのスタンプラリーを設置した。

折り紙や水引、雄勝石など、ワークショップで使用している素材を自由に使えるものづくりの場も併設した。「みんなでつくる塔と壁」に絵を描いたり、つくった作品を貼り付けたりとすることで、見るだけでなく、時の経過と共に来場者の手が増えられ、変化、成長していく展示とした。

■ワークショップ概要

- 一、ガレット・デ・ロワ(前半)オリジナルフェーブの制作  
日 程：二〇一八年十一月三日(金・祝)  
講 師：松井利夫、亀山英児(三輪田薫)  
人 数：四〇名
- 二、祝いこけし  
日 程：二〇一八年十一月二四日(土)  
講 師：櫻井尚道(桜井こけし店)  
人 数：七名
- 三、ほってえ皿制作体験  
日 程：二〇一八年十一月二五日(日)  
講 師：OGATSU x (石巻市立雄勝小学校のこども達)  
人 数：一〇〇組
- 四、秋田の木遣いと作る箸・箸置き  
日 程：二〇一八年十一月二五日(日)  
講 師：小玉順一(小玉建具店)、佐藤友亮(佐藤木材容器)  
人 数：二四名